

高鷲文化財保護協会講演会

「石徹白騒動について」

講師：上村 浩昌 氏

令和6年度第1回文化財保護協会講演会を8月31日（日曜日）に高鷲町民センター研修室で行なわれた。会場には町内の会員はもちろんのこと、郡上から多くの市民の参加があり、講演会は盛況のうちに始まった。

講師の上村浩昌氏は、高鷲町正ヶ洞で誕生され、高鷲小学校、高鷲中学校、郡上高校、岐阜大学へ進学され、その後、岐阜県の小中学校の教員を務められて、令和2年3月に定年退職されました。

今回講演いただく「石徹白騒動」は、先生が学生時代の卒業論文に書かれたことを講演された。以下講演レジメから引用して講演内容を記す。

宝暦2年（1752）10月18日僧 恵俊が浄土真宗の隆盛を願い、石徹白中在所にある威徳寺を信者から多くの金を寄付して貫立派な本堂を作り、高山の照蓮寺の掛所（支院という位の高い寺）にするには京都本願寺の許しがいる。恵俊は本願寺に、石徹白の神主も、郡上藩の役人も賛成していると嘘をつき、照蓮寺の掛所となった。

これを知った中居神社神主の石徹白（上村）豊前は、正ヶ洞村の伊兵衛を伴って上洛し神祇道の荒廃を口実に吉田神道に接近した。翌3月上旬、豊前は吉田家より書状を受け、郡上藩寺社奉行根尾甚左衛門に石徹白を吟味するよう、書状と賄賂を渡し帰村した。すると郡上藩から手代片重に足軽を連れて石徹白に使わし、社人達を集めて今後は何事によらず豊前の命に従うと言う一札に判を押させようとしたが、この申し付けに従う者はいなかった。そのような中、僧恵俊は高山塾居を本願寺から命ぜられ、宝暦4年には豊前は桜井平右衛門ら3人を連れて上洛し、吉田神道に3人を入門させて治郎兵衛の追放を要請した。

同年3月、郡上役所の片重が足軽2名を連れて再び石徹白へ来て上村治郎兵衛を豊前宅へ呼び、何の吟味もせず、吉田家の命令であると言って追放欠所を言いつけ、鷲見上野へ追っ払った。彼は威徳寺門徒の有力者で、昨年本願寺出頭した時、豊前に恥じをかかせた報復であった。

豊前は造営山の木の乱伐をして問題になったが、社人の非難に耳をかさず、社人たちは郡上役所に訴えたが、豊前を「非難するのか」と叱られ、こうした郡上藩役所の態度では正しい裁きは望めないと、ついに江戸出訴を思いたち、宝暦4年8月、神頭職杉本左近・社人総代上村十郎兵衛・桜井吉兵衛の3人が豊前を相手どり、寺社奉行本多長門守忠央へ



訴えた。訴状は金森家に回され、3人の願主は郡上藩家老伊藤弥一郎から一応の取り調べを受けたが、郡上へ送り返され、越訴不届きとして手錠をかけられ宿預けとなり翌5年5月まで続いた。11月には江戸越訴の3人と上村源右衛門ら3人は牢から引き出され郡上境母野で追放欠所が申し渡される。

その後奉行の根尾は、反豊前派の者を80人を入牢させ、領外へ追放した。杉本左近は宝暦6年7月に江戸へ下り、8月に老中松平武元の登城時に駕籠訴を行う。訴状は寺社奉行本多長門守へ差し回され、閏11月、豊前は江戸へ呼び出され吟味を受けた。

宝暦7年7月、上村十郎兵衛ら3人は82名連名の訴状をもって江戸に出て再び寺社奉行へ訴え出るが、何の音沙汰もなかった。宝暦8年6月久保田九郎助らが、3度目の訴状をもって江戸に下った。二人は杉本左近らの宿を避けて下谷町松屋の宿をとった。

杉本左近は駕籠訴をしてから3年越しになると苦難の年月をふり返り、焦りと苦悩に満ちた訴状に、飢え死にした人72名の名簿を添えた。6月11日九郎助・清右衛門は分厚い訴状を目安箱に納めて、呼びだしを待ったが、何事もなかったので2度・3度と箱訴を繰り返した。3度目の箱訴でようやく呼び出しがあつて訴状が受け取られた。9月7日には九郎助、清右衛門、左近ら6人が評定所へ呼び出しがあり、豊前、大膳ら3人も吟味を受け、それぞれ宿預けとなった。

8月22日老中酒井忠寄から石徹白の一件は郡上の一件といっしょに吟味するよう御詮議掛5人へ覚え書きが渡された。こうして厳しい吟味の結果、石徹白豊前は死罪、豊前の召使由助は追放、杉本左近は30日間押込後帰郷を許される。久保田九郎助ら箱訴人は急度叱り、金森藩は改易、根尾甚左衛門は死罪となった。

注

①正ヶ洞村伊兵衛：正ヶ洞村庄屋伊兵衛は取水口並びに水路の一部が利益を異にする中切村地内に設けなければならなかった。ところが、中切村では水路建設によって既存の耕地に水が差し、農作に悪影響を及ぼすと言って容易に賛同してもらえなかった。そこで伊兵衛は、無風の闇夜に人目を避けれ妻子ともに提灯をかざし、その灯火を目標にして測量し終えたと伝えられている。新田開発という大義名分のもと郡上藩庁の協力を得られるや、中切村も同意し、工事は一挙に進められた。

この水路開通によって村人の生活は一変し、水路沿いに道路ができ町屋ができ、貧困な大地は一挙美田化していった。この水路を正ヶ洞用水という。この利水事業は郡上藩にとっても特筆すべきものがあり、施工者伊兵衛の名声は藩内に広く知れ渡った。この事は宝暦騒動の時、藩庁と各村の庄屋・農民の間に立って、種々の折衝役を務めた。

②吉田神道(唯一神道)：京都の吉田家を起こりて吉田兼俱にいたって大成されたものである。これは鎌倉時代の末から南北朝時代まで盛んであった本地垂迹説を中心とする両部神道に対して、唯一成る神道の根本を守って神明の本誓を崇めることを力説したもので自ら唯一神道と唱えた。江戸時代前期に神道界を風靡するに至った。

③追放欠所：反分子や政策に反対するものを追い出して、幕府等に役収された総ての土地。

④造営山：別山を失ってからの石徹白では、社家・社人が貧困化していき、貧困ゆえ神社林などの売却が行われ、社家・社人の間で権利を巡る争いが起こった。豊前は自分の上洛の費用・賄賂・私費に充てるため造営山を乱伐した。

⑤郡上一揆：郡上藩主金森頼錦は、窮乏化した財政を再建するため、毎年一定額の納税を義務づけた定免法から、豊凶によって年貢高を決定する検見法への切り替えを画策した、事実上の年貢増徴作に反対した農民達が、宝暦4年8月に八幡城下に強訴に及ぶ郡上藩宝暦騒動が始まった。

(疑問点)

- ①なぜ、寺社領である石徹白に石徹白豊前みたいな人が誕生したか。
- ②「石徹白」という地名はいつから付いたか、また人名とどちらが先か。
- ③なぜ幕府は郡上一揆と同時並行で詮議を行ったのか。

- (参考文献) 1 上村浩昌「高鷲文化財保護協会レジメ」
2 図説 郡上の歴史
3 岐阜県歴史散歩